

## 石造物の再調査



筏場新田 古道の馬頭観音

2回目の調査では、前回発見できなかった石造物を再調査した。結果として全28基中26基を発見できた。約30年前に発行された書籍に記載された石造物の殆ど、賽の神に至っては全てが現存しているという事実は、この場所にとって、賽の神は土地の要に座すべきものであるということだろう。



地藏ヶ平の祠



筏場の祠



微細な地形の起伏があるため、水道が複雑に交差している

梅雨の時期、降雨が続いた後に訪れたため、至ところから水の音が聞こえる。水の流れは X 軸方向にも Z 軸方向にも複雑に積層しており、水の網目の切れ目を歩いている様な感覚を覚えた。



建物と道も微細な地形に添い複雑に交差している



高低差のある水路



貴僧坊集会所内の石造物

また、貴僧坊集会所内に祀られている青面金剛像、地蔵菩薩像、愛宕大権現象も拝見させていただきました。その後調査した原保地区もそうだが、その場所に居られなくなった石造物は地域の別の場所に集積されている。



賽の神と同居する消火栓

ここに賽の神があるかもしれないと思った箇所に、消火栓があることが何度もあった。集落の境界である、水道が付近にある、守るべき要所がある。よく考えてみれば、この2つは立地させる動機が近い。





境界にある墓地